

個人山行 北ア・折立～雲ノ平～水晶岳～赤牛岳～読売新道～黒四ダム

2012年8月5～10日

藤本嘉高

〔5日〕晴 茨木～富山

昼に出発して、富山駅前のアパホテル泊。

〔6日〕折立・朝雷雨のち晴 折立～太郎平

バスを降りると、スプ濡れのテントや装備の片付けをしている。つい先ほど激しい雷雨があったらしい。曇り空の下・濡れたベンチに座ってコンビニ弁当を開く。曇り空でも降りそうもなくパッキングして出発した。このコースは9回目か10回目かと考えながら歩いていると、明るくなって三角点到着。ここより先は、次第に「ハイジの世界」の様な美しい風景・草原の広がる楽しい道。やがて、赤い屋根が見えて太郎平に到着した。ビール党は「これが楽しみ」と言って生ビールを嬉しそうに飲む。ここは尿酸値の数値は皆無の世界なのです。テント場は、緩いお花畑の小尾根を登って下りたいいつもの所で、乾いた場所を選んで張る。食事をして、星空を眺める為に早く寝袋に入って眠る。目が覚めてテントを開けると「満点の星空」これがテントの良さと楽しみ。

〔7日〕朝小雨のち晴 太郎平～雲ノ平

テント撤収直前に小雨が降りだして少し待つ。見ていると、雨具を着けて行くグループが多く、不快な蒸れを嫌う私は雨音を聞いている。やがて明るくなり、テントをたたみ・パッキングして出発した。太郎小屋への小尾根に登ると、薄日が射ってきて風景が広がり始めた。「360°の風景をビデオ撮影」、一寸の違いで快適です。薬師沢への道に入り、木道・草原を楽しく歩き薬師沢小屋に着いた。雲ノ平への登りに備えてしっかり食べる。美しい黒部源流のつり橋を渡ると・すぐに急登になる。雨後の濡れた木の根道は、泥付きヌルヌルで滑って困る。土が流出して道が荒れており、登りであるのに滑る為に一定のリズムで登れないのである。でも、このペースなら雲ノ平の到着時刻は予想できる。やがて樹林が低く・明るくなって雲の平の一角に出て気楽になった。緩やかな道を行くとワタスゲが咲いており写真撮影する。少し行くと、遠景の台地に山荘が見えてきた。昔と変わらぬ台地の下に達して階段を登り、巨大化した山荘前に立った。ここでテントの届を出した。テント場へ15分程歩き、木道横の乾いた所にテントを張った。日差しが暑くテントに入れないので、周囲を片付けて「360°の風景」をビデオ撮影した。雲ノ平：周囲は百名山の山々・黒部源流が回り囲み・高山植物が咲く。逆光の黒部五郎が濃い影になる頃・寝袋に星座を夢見て入る。夜・テントを開けて満点の星空を眺める「幸せ」。

〔8日〕晴 雲ノ平～水晶岳～赤牛岳～奥黒部ヒュッテ

今日はコースが長いので4時出発。空気が乾き・テントは夜露も下りずにドライで、パッキングも楽である。誰かが「今朝はよく冷えて氷が張っていた」と言っていたが、雪田の解けたものが、又・固まっただけだろう。薄明・ヘッドランプで出発。やがて、朝の光に満ちた爺ヶ岳に到着した。360°の展望にビデオ撮影をする。ここで、単独テントの若者と「あの山・この山」とお互いに話し始める。彼は、立山から縦走してきたとの事。右下に広がる深い緑の谷は黒部源流、ビデオに収めて出発した。展望を楽しみ・次第に標高が上がり、裏銀座コースに合流して、大展望のかわいい水晶小屋に着いた。小屋の人に念の為・奥黒部ヒュッテ迄の確認をすると、8時出発が制限時間でOKとの事。この先の心配は、7月中旬に筋肉を痛め・整形外科診断 → 整形外科へ毎日欠かさず通い詰めて7月31日に終了した。当然・筋力は低下しており6～7時間の歩行力だろう。つまり、本コースの後半はペースダウンが見えている。小屋を出て・水晶岳は簡単に着いた。狭い頂上の360°展望は、以前の記憶以上に素晴らしく・ビデオ撮影。この先の赤牛岳方面はきれいな稜線が延びており、右下に黒部のダムが見える。水30弱・先は長いけれど初めてのコースは新鮮で楽しい、先ずは温泉沢の頭目指して急坂を下り始める。この尾根は、どこから眺めてもくっきりとしており、濃淡で表現すると「濃い縦走路」と言えるだろうか。

予想通りのペースダウンで温泉沢の頭に着き小休止。快晴で景色よく、近くなった赤牛岳が美しい。歩き始めると、逆コースで駆けるトレイルラン数人に会った。高山を軽装で駆け抜けるトレイルランは、平地では味わえない快適なランニングである。彼らは今・高山の爽快な風が体を吹き抜けるランニングハイの中なのだろうか。赤牛岳の頂に立つ。ゆき方は・右下の稜線と青いダム。越し方を見ると・美しい稜線が水晶岳まで続いている。この美景を・全周ビデオ撮影と、遠く青い「白山」を・座って手振れ防止状態でスーム一杯にUPした。雪渓・山ひだ、白山全体がくっきりと見えた。好天に恵まれ・最後のピークに立てた事に感謝して下山を開始した。高山帯が思った以上に長く続いたが、いつしか樹林に入った。やがて、深い深い森林の急下降が続く。難しくないが、足に無理を掛けないように一定のペースで下るので時間がかかる。遅いペースでも、見事な森林の中を歩くのは楽しい。黒部の語源は「木曾五木『ネズコ』の別名が『くろべ』と言ひ」これから来たらしい。溪流音が近くなって平地に下りた。左へ道なりに行くと小屋があった。小屋に入ってテント届を出した。水晶岳で一緒だった人達は、67歳の私が遅いので心配してくれていた、ありがとう。テントを張り・夕食をして空を仰ぐと星空が美しい。でも、谷間の空は細長くて狭い、心地良く寝る。

〔9日〕晴 奥黒部ヒュッテ～ロジックろよん

朝・疲労感もなくテントを片付ける。前夜/小屋朝食を頼み 今朝頂く。小屋の人は親切で気持ち良かった。出発は、トレイルランの人も・私の様なテントも、同じ様な時刻に出発して行く。足は6時間程度なら早く歩けると、景色が気に入っているのでも・アップ・ダウンの栈道も心地良い。途中で撮影をしながら、思ったより早く「平の渡し」に着いた。待ち時間は1時間半程だが、岩魚釣りをしているグループのリーダーらしき人が博識で、色々と楽しい。私は、岩魚ゲットの撮影を準備して待つ。釣り人が、ダムの下手から上手へ移って2～3投するとゲット・岩魚が引き寄せられた。ここで、個体の特徴を丁寧に説明されて、全てビデオに納まりました。やがて、渡し船が見えて到着・乗り込んで対岸に渡る。それにしても、すごい渡し場もあったものだ。対岸の道は緩くなったとは言えアップ・ダウンの連続。それにダム沿いの道は長くて退屈。その内、御山谷に出て橋を渡って回り込み「ロジックろよん」に着いた。ここは、山スキーで御山谷を滑ってきて以来である。下山を考えていたが、一緒になった金沢の人の進めでテントを張る。(アルファ米2食(夕朝食)を頂いた)今夜も星空。でも・夜露でテントは濡れており、星は潤んでいた。

〔10日〕晴 ロジックろよん～黒四ダム～扇沢～大町温泉郷～信濃大町～茨木

夜露でぐっしょり濡れたテントを嫌々パッキングして6時過ぎに出発。広い道をダムに沿って歩き、静かな黒四ダムに着く。荷を下ろし・座っていると冷えてくる。やがて店の人達が出勤・開店の準備を始める。始発8時、明日からは始発7時との事。ダム正面の山は赤牛岳かな、地図も見ずに考えながら缶ジュースを飲む。まだ、始発の時刻迄は余裕あるが「地下駅へ早めに」と思って立ち上り、黒四ダムと周囲の山々を仰ぎ見た。

トレイルランの進め: 若い人は、3000m級の山を駆ける爽快感を味わって下さい。本当に楽しいです。

雲ノ平の思い出: 44年前「標識・これより雲ノ平」で、岩にもたれて休憩している時の事です。

突然前の岩陰から「ひょこっと オコジョが顔を出した 可愛い！」前や後や右左と顔を出し周囲を駆け回る。人の気配がする迄さんざん遊ばれた。当時、雲ノ平に人が少ないとは言え10分以上もの長い時間です。

「奴は一体何を思って俺と遊んだのか？」今も、強烈で楽しい思い出です。